

和泊町立中学校のあり方座談会 会議録（概要）

1 日 時 令和 7 年 10 月 28 日（火曜日）午後 7 時～午後 8 時

2 会 場 大城小学校音楽ホール

3 出席者

（1）大城小学校保護者・和泊町民・教員 18 名

（2）和泊町教育委員会事務局：永井局長，市来指導主事，和田次長，上別府次長
安田係長，村吉主査

4 会議の内容

（1）開会あいさつ（永井局長）

（2）和泊町立中学校のあり方について資料説明

（3）質疑応答

（4）終了

5 議事録（発言者，発言内容等を記載）

1. 開会あいさつ

（和泊町教育委員会 永井事務局長）

※省略

2. 会議の進め方と情報公開について

（事務局）

※省略

3. 現状と課題の説明（概要）

（事務局）

説明は，配布した座談会資料に基づき行われた。

※省略

4. 質疑応答及び意見交換

（参加者）なぜ，城ヶ丘中学校区にだけ，和泊町立中学校のあり方座談会をやるのか？を教えてください。

（事務局）現在，城ヶ丘中学校の生徒数は 36 名ですが，令和 13 年度以降は 30 人を割ると推計されている。城ヶ丘中学校区のご意見をまずは伺って，その結果を和泊中学校区に提示・説明をするのが効率的だと考えている。和泊中学校区の皆さんも城ヶ丘中学校区が学校

の統廃合に関してどのような意見を持っているのかというところが1番気になる思う。

(参加者) 和泊中学校区に城ヶ丘中学校を統合するので城ヶ丘中学校の人に先に統合の可否を聞いてから進める形で動いているということか？

(事務局) 城ヶ丘中学校を和泊中学校に統合するというのはひとつの案であり、前回の説明会でもご意見があった通り、城ヶ丘中学校に大城小学校と内城小学校部分を統合して、小中連携校や義務教育学校にしたいという意見もある。保護者や地域の皆様がどういう意見を持っているのか、我々も把握できていない状況なので、具体的に学校のあり方について進めることができていない。

(参加者) 現在は、和泊中学校区の意見は聞いていない状況で、城ヶ丘中学校区の人たちだけで統廃合するなり義務教育学校にするなりを考えろと言っているのであれば、座談会のタイトルがそもそもおかしい。統廃合前提で話が進んでいる印象を与え、座談会のタイトルと目的が矛盾しているのではないか。

(事務局) まずは、城ヶ丘中学校区の意見を聞いたうえで、和泊中学校区にも説明会等をする必要はある。和泊中学校区から城ヶ丘中学校区に行くとなると、アンケートも取りますが、大人数のため可能性は低いと考えています。

(参加者) 可能性が低いのであれば、初めから和泊中学校区の人たちに城ヶ丘中に統合するということはあるえないということを伝えるべきであり、城ヶ丘中学校を存続させるのか和泊中学校にくっつけるのか2択を迫っている座談会じゃないですか？

(事務局) 2択ではないです。3択あります。そのまま2校を残す、城ヶ丘中学校を和泊中学校に統合する、城ヶ丘中学校に大城小と内城小学校をくっつけた義務教育学校をつくるなど。

(参加者) そうなると中学校のあり方が変わるじゃないですか。

(事務局) その進め方については議論もありました。教育委員会としては、今のところ4つの小学校は残していこうと考えている。なぜ中学校なのかと言いますと、心も体も成長する段階であり、皆さんに考えていただくという手法を取っている。そのなかで、小学校をどうするのか？というご意見も出てくると思う。様々なご意見を伺ってから我々としても考えていきたい。

(参加者) 和泊町としては小規模校という言葉に対してどのくらいの人数を想定しているのか？小規模校の定義を教えてください。

(事務局) 小規模校の定義としては、全国的にない。23 ページに記載しているとおり、明確な定義はありませんが、文科省は、小学校は 12 学級未満，中学校は 3～11 学級が小規模校と位置付けられている。したがって、和泊町内の全小中学校は全て小規模校である。

(参加者) 和泊町全体で見てもすべてが小規模校ということでしょうか？

(事務局) そのとおり。

(参加者) 全部が小規模校なのにメリット・デメリットの話をしても意味がない。

(事務局) 100 人規模の学校と 20～30 人規模の学校では、行事や環境も違う。こちらの資料に掲載しているメリット・デメリットは、全国各地の自治体がHPに掲載しているあり方検討会の会議録等を参考にさせていただき、皆様の配布資料に掲載している。ただ、配布資料の事前アンケートについては、地域の保護者が考える小規模校のメリット・デメリットなど生の声を掲載している。

(参加者) 例えば、小学校を 1 校に統廃合したとして、文科省と折衝してきて小規模校が良いという人のニーズもあるから 1 クラス 15 人くらいの学級でやらせてほしいという風にして話をするとか、いろいろ小規模校のメリットを訴える人もいるけど、人数が多い方が良いという人のメリット・ニーズを考えると、クラスの運営としては人数が少ない方が良いと思うが、学校全体としては人数が多い方が絶対に子ども達には良い。人数の少ない小規模校よりは経験できることもあると思う。ただ、クラスの人数が多いといやだっていう子もおそらくいるでしょうから、15 人くらいの単位の人数（特に低学年）にしてくれば、学校の先生の目も行き届くし、30 人とか 40 人のクラスとは全然違うと思う。そういうことを考えてほしいと思っている。私が言ったパブリックコメントですが、こども園から高校まで一緒にして、県や国のお金を引っ張ってきて大きな校舎やアリーナ（総合交流施設）を造るよりもそのくらいの学校規模で造れば、体育館が欲しいと言っていることもできるだろうし、義務教育学校では視察に来ない。こども園から高校までの一貫校を造れば、前例がないから視察に来るから、観光効果や飲食店も含めてメリットが出てくると思うし、今まであるものを作るのではなくて、今までにないものをやるためには、和泊町でこだわっているのではなくて、もっと視野を広げて話をしてきてほしい。知名町だって統廃合の話は出ていると思う。沖永良部高校だって、人数の定員割れという話になっていると思うし、こことここをくっつけたから終わりっていうような、何の発展もないことにいろんな人を集めて有識者まで来て

もらって説明しても意味がない。トップダウンで、人数が少ないからこことここをくっつけて終わりっていう方が簡単じゃないですか。どうせ将来的にはそうやらないといけないような財政状況になってくる。

(事務局) まず、学級編成については、県から「公立義務教育諸学校の学級編制」についてという基準に基づいて、クラス編成が行われている。小学校ですと1クラス35名、中学校ですと40名となっています。

(参加者) それはわかっているが、特区として文科省と交渉してくるのがあなたたちの仕事じゃないですか。こども園から高校までの一貫教育の学校をつくるために、クラスの人数の話も含めて特区的な話をしてくるのが。教育委員会と県が一緒になって文科省行って交渉してきてほしい。

(事務局) こども園から高校までの一貫校は良い案だと思います。ただ、島には2つの町があり、非常にやりにくい部分がある。例えば与論島や喜界島のようにひとつの島にひとつの町であれば非常にやりやすいですが、今の沖永良部島は2町あるので教育予算に対する考え方や財政負担の調整が非常に難しく、こどもたちに弊害が出る可能性があるため、現在は両町が連携して取り組むことが難しい状況である。移住者で来られた方や、島出身者の都会で暮らしている方からは、「沖永良部島がひとつになればいいのにね」という意見をいただくが、現状は難しい部分がある。町内の学校のあり方を考えるなかで、まずは中学校から話をさせていただきたいという形で進めている。

(参加者) お互い両方の町で仲が悪くて話ができないと言っていたら、いつまでたってもいろんな話がまとまらない。その頃には、うちの子どもの中学校も高校も卒業してという話になると思うので。そういう考えで町が運営しているのであれば仕方がない。前回の内城の時におっしゃっていた参加者から津波の件で質問があり、和泊中なら大丈夫みたいなことを言っていたが、陸前高田とか釜石とかは20mくらいまで津波が上がってきた。陸前高田は、5.5mの堤防を乗り越えてまで津波が上がってきて、そのあと4階建ての庁舎が水没したというのもあるので、絶対に来ないとか大丈夫とかの話をしていましたけど、子ども達の命のことを考えるとなかなか和泊中に行かせるのは心配がある。

(事務局) 絶対に来ないとは言いきれませんというのを前置きして話をした。誰も津波が来ないと言えない。前回、城ヶ丘中学校の説明会時に海拔を14mとお伝えしていたが、総務課に再度確認をしたところ、和泊中学校の海拔は18mであった。和泊中学校では、全校生徒を対象に年2回(4月・9月)津波避難訓練を実施している。ちなみに和泊町役場の海拔が12m、知名小学校は海拔11m。おっしゃる通り、100%津波が来ないとは誰も言い切れな

いところだが、気象庁のデータでは、奄美群島太平洋沖の震度 5 強の地震があった場合に、津波の高さは 7.04m、発生から津波到達まで 27 分と想定されている。これまでも、地震発生から津波がすぐ到達したといったデータはないので、到達までの間に生徒を避難させる。まずは、一時避難場所は標高 30m、最終的には高千穂神社（60m）まで避難をさせる想定を学校はしている。東日本大震災の津波に関しては、マグニチュード 9.0 という非常に大きな地震であったことや地形的な要因もあり威力を増したというデータがあった。和泊中学校に津波が来ない確率は 0 % ということは言い切れない。城ヶ丘中学校に和泊中学校を合併したとしたら、マイクロバスが約 8 台（15 人乗りの場合）必要になる。もしくは、他の場所に中学校を新設で造るかになると思う。現在、教育委員会宛に、和泊中学校、和泊小学校、国頭小学校区の皆様から津波に関するお問合せ等は特別にいただいていない状況である。

（参加者）海の近くで津波が想定されるのであれば、リスクとして抱えないように早めに排除することを何人かに言われているのであれば、起きた後に「あの時言ったでしょ」とならないように対応してほしい。

（参加者）もし、城ヶ丘中学校と和泊中学校が合併した場合、教育委員会や町は、廃校になった校舎をどうやって有効活用していくのか。自分の妻の実家が瀬戸内海の島にあり中学校と小学校が廃校になった。先日、妻の実家に行ったときに、校庭は草まみれになり、使われていなかった。少子化の影響で廃校になった。妻が中学生の時、同級生が 3 人だった。現在、部活動が卓球とテニスだけ。野球などの部活動ができない状態になるのはかわいそうと思うし、統廃合した場合、スクールバスを運行すると思うが、城ヶ丘中学校からバスを出すのか乗り合いのような形になるのか、そういうところまで考えているのか。

（事務局）廃校の有効活用については、現在、全国で廃校数が 7,612 校あり、そのうち活用されているのが 5,661 校、活用されていないのが 1,951 校となっている。74% 以上は何かしらの形で活用されている。文科省が出している「みんなの廃校プロジェクト」では、老人ホーム、コワーキングスペース、食品加工場などの事例が公開されているので、ご覧いただければ参考になると思う。統合が決定してから開校までには通常 3 ～ 4 年かかる見込みである。例えば、城ヶ丘中学校と和泊中学校が統合するとすれば両校の名前は消える。新しい中学校名になり、校歌や制服等も変わる。そういったパターンがどこも非常に多い。なので、城ヶ丘中学校のみ名前が消えるというのではない。

（参加者）それは明言していいのか。

（事務局長）それはまだ決定ではない。学校の名前が変わるのは決定ではないが、可能性はある。他の地区のように校名が変わるケースもあれば、校名が残るパターンもある。これ

は、まだ決定ではないのでご理解いただければと思う。

（事務局）私も城ヶ丘中学校は母校なので、城ヶ丘中学校だけが統廃合によってマイナスを負うことはおかしいと思う。やるべきではない。やりたくない。

（参加者）それは、個人の想いであって、和泊中学校の校名がなくなるとか、校歌も変えますとか、役場職員がこの場で言うのはおかしい話である。

（事務局）すいません。訂正させていただきます。統合の際は、校名や校歌が変わる可能性もある。送迎バスについては、他市町村の事例を参考にとするとスクールバスの運行が適しているのではないかと現段階では考えているが、子ども達にとって最適な方法を検討していきたい。E町の事例を紹介しますと、スクールバスとして8台の車両で幼稚園から中学生までを送迎しており、朝は7時から運行を開始している。下校便は、幼稚園が午後1時30分、小中学校が午後3時30分発と4時30分発の2便、部活終了後の6時30分発となっている。土・日も午前、午後に部活を行う生徒のために運行しているとのこと。

（参加者）E町の人口はどのくらいで、財政状況が悪くて学校の統廃合を行ったのか。

（事務局）E町の人口は、約6,000人弱。学校の統廃合は平成24年であり、かなり早い時期にしている。細部まで調査ができていないが、凄いいことだと思う。

（参加者）行政主体で統廃合を進めたのですか。

（事務局）行政主体で統廃合を進めたと聞いている。C地区は、こどもの数がかなり減少したことから、住民から統廃合を検討してほしいという要望があった。財政状況が悪化した場合は、行政が主導して学校の統廃合を進めなければいけない可能性はあると考えている。

（参加者）もう財政状況が悪化している状態ではないのか。

（事務局）財政状況を確認しながらではあるが、実質公債費比率が17%を超える状況になると県からの指導が入ってくると伺っている。

（参加者）令和13年度に城ヶ丘中学校の生徒数が30人を割るというタイミングで統廃合を考えているのか。すぐにはできないと思うが。

(事務局) すぐに統廃合はできないと考えている。D町の事例でも、昨年、中学校の統廃合をするという方針になったが、新設校は令和9年の4月に開校予定と聞いている。やはり、学校統廃合の方針が決まってから開校までは3年ほどはかかると想定している。本町においては、学校存続や統廃合については、皆様に選択肢がある状況なので、家族や地域の方々といろいろ話をしていただきたい。教育委員会は、学校の統廃合を前提に進めているわけではないので、その点をご理解をいただきたい。また、校舎の改修事業(長寿命化事業)等があり、学校をこのまま残すのであれば、他の事業と調整して改修予算を確保していかなければならない。

(参加者) 児童生徒数の推移の部分が気になる。先ほどの質問でもあった、和泊中学校区の保護者に対してアンケートを取らない理由を教えてください。

(事務局) 全校生徒30人を切ることが予想されている城ヶ丘中学校、少人数校のある地域の皆様の考えを伺ってから和泊中学校区の皆様にもご意見を伺おうと考えている。

(参加者) 現在、国頭小学校の全校生徒数は67名で令和13年度に36名になってしまう。和泊小学校も207名から令和14年度に126名まで減ってしまう。40%~50%の大幅な減少になっていて、大城小と内城小は、約20%の減少にとどまっているので、減少の割合でいうと和泊小と国頭小のインパクトの方があきらかに大きいので、そこに話を聞いた方が良いのかなと思っていて、来年アンケートを取るのも問題ないと思うが、逆に今、和泊小と国頭小に聞いても問題ないと思う。

(事務局) 現段階では、教育委員会として4つの小学校の統廃合は考えていない。

(事務局長) それは、決定ではありませんが、アンケートを取ることにについては、まずは城ヶ丘中学校区の皆様の意見を伺ったうえで、和泊中学校区の皆様の意見も聞かないといけないという声があったりすると思う。時期は未定ですが、いずれは説明会やアンケートをしていかないとはいけないと考えている。

(参加者) 和泊中学校区のために、城ヶ丘中学校区の人達の考えを先に聞くっていう理由は特にない。和泊中学校区と城ヶ丘中学校区でそれぞれ意見とアンケートを取って、それを擦り合わせるのは何の問題もないと思っている。保護者にアンケートを取るのは、まなびポケット等で簡単にできると思う。アンケートを取ることはできないのか。

(事務局長) 今すぐお応えはできませんが、アンケートは可能なので持ち帰って検討する。

(参加者) 人口の推移で気になっている点がある。出生されているこどもたちの人数がだいぶ減ってきているのはわかるが、今後、どこかに学校が統合されて校舎を増築した場合、10年後とか20年後とかさらに減っていく。校舎を作ってしまったけど人数が減ってしまった。そのあとどうするのが気になった。

(事務局) その部分が悩ましい点である。我々は、地域の皆様のご意向に沿って教育行政をしていきたい。本町は、財政が豊かな自治体ではないので、できるだけ既存の施設を使わせていただきたいと考えているが、皆様が新しい学校を造ってほしいというご意見があればそれも含めて検討していきますが、我々の時代では考えられないスピードで人口減少が進んでいて先が読めない状況である。記載している出生数は、転勤される方のお子様の人数も入っているためこの数字が減少したり増加したりする場合は考えられる。

(参加者) 厚労省が、2050年の人口推移でみると、和泊町内で各学年30人くらいしか子どもがいないのかなと想定されたが、知名町は20人くらいとなる。和泊町内で学校を増改築してまで造ってうまく学校が機能するのかわからないので、両町でも考えていかないといけないのかなと思う。

(事務局) 両町でも状況を共有しながら協議をしていければと考えている。

(参加者) 以前、城ヶ丘中学校で理科の専門の先生がいなくて社会の先生が理科の授業をされたと聞いた。美術の先生が和泊中学校からきているので、理科の先生も来ることは可能か。

(指導主事) 現在、城ヶ丘中も和泊中も美術の先生はいない。家庭科の先生もいない。和泊中の家庭科は、体育の先生が臨時免許状というのを取得して指導している。臨時免許状というのは、教員の経験であったり性格であったり3年間限定で交付される。ご質問の内容は、兼務という形態でどこかの学校の教員として働きながら他の学校も教えることができないかという話だったと思う。現在、和泊小学校にいる英語の先生が、町内の全ての小学校の英語の授業を見ている。これについては、セットプログラムという県の施策で行っているので意図をもって配置されている。それ以外で兼務ができるかとなると、できないことはない。ただ、両方の学校の校長がそれを承諾すること。例えば和泊中の先生が城ヶ丘中を兼務するということになると、和泊中の授業の準備が十分にできてからになるので、その先生の余裕や学校長の判断を得ることができればできないことはない。はっきりとは申し上げられないがそういう状況です。

(参加者) 今、若いお父さんお母さんたちが会場にいるが、税金を払っていくお年寄りたち

が、両町合わせて毎年約 200 人亡くなっていく。財政が云々と言っても税金を払う人たちがいなくなる。そして子どもも少なくなっている。そうやって来た時に、校区だけとかではなくて、小中高で考えて親御さんを集めて説明をするならしなきゃならないこと。これを、小学校、中学校、高校で分けて話をするのはどうなのか。小学校のこども達はいずれ中学校に行きます。そこまで考えて集まって話をしないと本来はいけないことだと思う。今だけのことを考えてもダメです。5 年 10 年先のこども達のことを考えてまずは話し合いをしていかなければいけない。そこまで考えて、アンケートを取らないといけない。教育委員会の人たちも、それは考えていません。それはできませんではなくて、親御さんたちの意見を聞くっていうのであれば、国頭校区と和泊校区でも座談会をしてほしい。あと、教育委員会の皆さんの話はおかしい。「小学校の統合は考えていない」などの発言は、教育委員会が決めることではなくて親御さんたちが考えることです。断定的な話をされると質問がしづらくなる。少し考えて教育委員会が親御さんに伝えることは、もっと情報が欲しいし、断定的なことは言わないでほしいかなと思う。親の意見をとにかく聞いてほしい。私に孫がいたらそう言う。

(事務局) 断定的な発言をしてしまった点については反省をしている。申し訳ございません。ただ、前置きとして「現状では」という話をしている。今後、いろいろな皆様のご意見をいただきながら進めていき、こどもたちにとって最善の学びの場を考えていきたいと考えている。

(参加者) 事務局長がいるので、総合交流施設の更に推進する会のことで、令和 9 年度から着工予定でしたよね。その時には、城ヶ丘中学校の校庭の東側に造るので、工事が始まるから城ヶ丘中学校はその時には閉校するっていう話で進んでいたと思うが、総合交流施設建設の話はなくなったということか。

(事務局長) 総合交流施設建設が無くなったということではなくて、今は予算の方も否決されましたけど、とりあえず議会の方では賛成派の方もいれば反対派の方もいらっしゃるの、まずはそのあたりの説明も町民の方にちゃんとした方が良いのではと考えている。総合交流施設建設について、町長は中止と訴えています、正式な手続きはまだ終わっていない状況。

(参加者) そうすると、総合交流施設をまだ建てるかもしれないのか。

(事務局長) 今のところは、町長も建てないという方向性を示しているところ。総合交流施設建設について請願を出されている町民や団体の皆様への説明をどうするかを検討している。ゆくゆくは、中止という話ができると思っている。中止という方向性を示しているの

で、城ヶ丘中学校の廃校というのは現段階では考えていない。

（参加者）総合交流施設を建てる予定は今のところ無くなったから、それによって廃校予定だったというのは、今のところ無くなったということなのか。

（事務局長）はい。総合交流施設自体、必要性はあると思いますが、今すぐ建設をするべきではないという町民の皆様から判断をいただいているので、我々もそういう判断をしておりますので、ご理解をいただければと思う。今後、各体育館にエアコン（空調）を整備していきたいと考えている。まずは、様々なイベント等も行われる和泊中学校、和泊小学校から先行して導入し、設備の充実を図っていきたい。その後に、各小中学校にも導入していくべきではないかと要望をいただいている。

6 閉会

参加者に対して事務局側の至らない点などについてお詫びをし、アンケートの回答は今後の方向性を決める大事なデータになることから協力を要請し、閉会した。また、今回の座談会に参加できなかった方々に対しても、今後の内城・大城校区で開催される住民向け座談会への参加を呼びかけた。